

サディーク ワ サディーカ



صديق و صديقة



江戸川区立第二葛西小学校

JICA 青年海外協力隊

ヨルダンだより No.20 終

令和6年 3月29日



世界はもっと広くて、不思議で、面白い…!!!

!!السلام عليكم/アッサラーム アライクム! (こんにちは!)

؟كيفك/ (女性に対して) キーフェック? ؟كيفك/ (男性に対して) キーファック? (お元気ですか?)

2月の末に6年生とはオンライン授業を通してお話することができ、先日の修了式、離任式では1~5年生のみなさんに会え、挨拶ができたこと、とても嬉しかったです。体も心も成長し、みなさんの2年間の頑張りを感しました。私はヨルダンを離れる前、協力隊生活1年7ヶ月の活動のまとめとして「活動最終報告」を行いました。長いようで短かった日々、目標にしたこと、それに向けて取り組んだこと、その結果についてお話ししました。自分のしたことを整理して伝えることの大切さを改めて感しました。

さて、「サディーク ワ サディーカ」は今回で最終号を迎えました。本号はこの1年7ヶ月、ヨルダンで生活する中で感じたことをお伝えします。

ヨルダンでの生活、活動を通して感じたこと、思ったこと、学んだこと

1. 「様々な人との出会い」は世界を広げる!

私が「青年海外協力隊」としてヨルダンに行くことになったのは、これまでに様々な方々との出会いがあったからでした。さらにヨルダンでもたくさんの方々との出会いにより新しい発見や学び、世界の広さを知りました。ヨルダンに行かなければ、会うことはありませんでした。とても貴重であり、「宝」となりました。

【ヨルダンに住む方々との出会い!】

★言葉の大切さ: アラビア語を教えてくれたり会話をしたりすることで見える世界がぐんと広がりました。

★「あいさつ」の温かさ: 街や道端、学校などでは周りの人が気軽に「元気?」「調子どう?」といった挨拶をしてくれるので、いつも元気をもらっていました。



★「おもてなしの心」: 「アハラン!」(ようこそ!)という言葉とともに、「お茶飲んでいきなさい!」「(お菓子など)これ持っていきなさい!」「ヨルダンに来てくれたから馳走するよ!」といつも温かくもてなしてくれました。

★人のやさしさ: いつでもどこでも困っている時に「大丈夫?」と助けてくれたり、疲れている時には、「お疲れさま」と声を掛けてくれたり、「サッハテン!」(食事の際に相手の健康を気遣う言葉)と言いながら、お茶やコーヒー、お菓子を差し入れてくれる等、気遣ってくれる方がたくさんいました。



「ニカサイ」のTシャツは一番お世話になった先生にプレゼントとしてお渡ししました。

【ヨルダンに住む日本の方々との出会い！】

★年齢に関係なく学び続けたり、様々なことにチャレンジし続けたりする方々がたくさんいたので、刺激をいただきました。



★ヨルダンに住む方々（ヨルダンの方だけでなく、パレスチナ、シリア、イラク、イエメン、南スーダン等出身の方々）のために働いている日本の方がたくさんいました。そして、それを喜びにしていました。（「『人』のために『動』いて」いました。）

〔ODA：政府開発援助（JICA、海外協力隊含む）、国連機関（UNRWA、UNICEF：ユニセフ、UNHCR、等）、NGO：非政府組織、企業、難民支援事業など〕

みなさんが2月に実施した「ユニセフ募金」。ヨルダンにもすべての子どもの命と権利を守るために活動する「UNICEF：ユニセフ」があります。そこで働く許 真実さんにお話を伺いました。

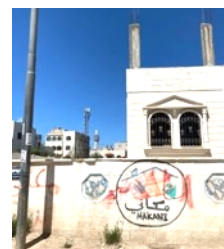
・ヨルダンには、3つの事務所があります。〔①中東・北アフリカ地域事務所、②イエメン事務所（遠方から支援している）、③ヨルダン事務所〕

・難民や弱い立場にいる子どもたちのために保健と栄養、教育、保護、水と衛生、貧困軽減などの支援を行っています。主に右の写真のような「マカニ・センター（アラビア語で「私の居場所」という意味）」で子どもたちの貧困軽減に向けた支援を行う部署で働いています。

・大変なことも多いですが、子どもたちや若者の成長や笑顔を見たりプログラムを通してどう変わったかなどの話を聞いたりすると楽しさや嬉しさを感じています。

・この仕事をしたいと思ったのは、小中学生時代に参加していたガールスカウトの活動において、駅前に立ってユニセフ募金を行ったり、小学校のクラスメートにユニセフについて話をしたりしたことにあります。その中で、自分と同じ年の難民の女の子の写真を目にし、国が異なるだけで生活環境が全く違うことに驚き、「なぜこういう生活を強いられているのか」と疑問を持つと同時に自分には何ができると考えるようになったからなのです。

これらはあくまで一個人の経験談ですが、少しでもヨルダンの子どもたちの事や世界が抱える問題について触れる機会になったら嬉しいです。



2. 日本のよさを知る！

ヨルダンに住む方々から、日本の「良さ」をたくさん耳にしました。

- ・人の優しさ、親切さ、道徳心
- ・街にゴミが落ちておらず、整頓されていて美しいこと。
- ・みんなが列などの順番を守り、整列ができること。
- ・学校ではみんなで掃除をして学校全体を綺麗にすること。
- ・日本でつくられたものは全て質が良い。（もの、車など）
- ・食べ物が美味しい、四季があり、自然が美しい。（森林、富士山、桜、紅葉など）
- ・戦後からの立ち上がり、復興が著しく素晴らしいこと。
- ・「日本は『国』ではなく、日本という『惑星』である」という言葉もあること。
- ・日本のアニメはとても面白く、有名であること。（何十年も前から日本のアニメがヨルダンで放映されていた。※それがきっかけとなり、日本語を勉強し始めた方もいました。）



3. マイノリティ（少数者）の立場を味わう！

私が活動していた学校には、パレスチナ出身以外の「外国人」は私一人でした。宗教、文化、言葉、生活が全く異なる場所で活動することはもちろん簡単なことではありませんでした。言葉が理解できない、自分の思いをうまく伝えられない…といろいろな辛さもありましたが、その状況でどのように活動していくべきか…と考え、行動する機会にもなりました。そして、そのたった一人の「外国人」としての経験はとても大切であり、この経験が日本で困っている方への何かの助けになるのではないかと感じています。

4. 世界の広さを知る！

- ★言語：「アラビア語」は日本語の文法と全く異なるため、とても難しいです。しかし、知れば知るほどその奥深さにも気付くことができました。アラビア語には、相手を思いやる「優しい言葉」がたくさんあり、とても美しい言語だと感心しました。
- ★宗教：これまで知らなかったイスラム教の「考え方」、「文化」、「生活」を知ることができたこと
〔食べ物（豚肉などは食べられません）、お祈りの仕方、断食をする「ラマダン」、人への接し方など〕
- ★文化・生活：宗教により、生活や文化が異なること（イスラム教とキリスト教でも異なります）
家族をととても大切にしていること（イスラム教の方は、毎週金曜日は家族で集まります）
電車がなく、交通手段は基本自動車であること（自家用車、バス、タクシー等。地方や遺跡などに行くと、ラクダやロバ、馬で移動する人もいます）
- ★学校：
 - ・子供が多く学校の建物の数が少ないので午前と午後の二部制であること
 - ・授業間の休み時間はなく、体育や図工、音楽はあまり行われていないこと
 - ・給食・クラブ・特別活動がないこと、
 - ・小学校でも男女が別の学校へ通うこと（原則5年生以上だが、地域の実態による）
 - ・日本のような式（入学式、卒業式等）や行事（運動会、秋行事など）が行われていないこと
- ★難民問題：
 - ・戦争や紛争等により、自分の住んでいた地域、国に住めず、歩いてヨルダンに逃れてきた人がたくさんいること
 - ・戦争や紛争で家族や友人を亡くしている人がたくさんいること
 - ・貧しさなどから、学校に通わず働く子どもや学校に通えなくなり小学校卒業も叶わない子どももいること（そのため、会話はできて文字を読んだり書いたりできない方もいます）
- ★紛争問題：
 - ・命の危険が隣り合わせであること
 - ・様々な理由で家族や友人に会うことができない人がいること
 - ・学校に通うことも学ぶこともできる状況ではないこと
 - ・食べ物が不足し、栄養失調で亡くなる子どもが増えていること

5. 自分の「当たり前」、日本の「当たり前」は「当たり前」ではない！

これまでお話ししてきたことの中で、自分の考えや生活と異なることが、こちらにはたくさんあります。自分が生きてきた中で「当たり前」だと思っていたことは、こちらでは「当たり前」ではないのです。

食べ物、時間の使い方、学校生活等…、学校に毎日登校し、勉強し、給食を食べ、友達と遊び、温かいお風呂に入り、安心して眠ることができることも、当たり前ではないのです。

そこから私が考えたことは…

「私は、たまたま『日本』に生まれたただけである。」ということです。

ただそれだけで、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学へ通い、海外にボランティアしに行き、先生として働くことができ、やりたいことができている。これは、「当たり前」ではない。

同じ時代に、同じ地球上で生まれたのに、この違いは一体何だろう…。だからこそ、

「今日生きていること、水に不自由せず、食べ物をいただけること、冬でも温かいお風呂に入り、温かい布団で眠ることができること、家族や友人、二葛西のみなさんに会えること、仕事があること、ボランティアとしてヨルダンに行ける環境であったこと、そこでたくさんの方々に出会い、たくさんのお話を学ぶチャンスがあったこと、自分のやりたいことができること、明日、1年後、10年後、将来のことを考えることができること。

そして、これらのことに感謝して過ごし、たくさんチャンスをいただいた分、今の自分に何ができるかを考えて、「人」のために「動」こう。」と感じています。

6. 「学び」(=教育)の機会は、その分『チャンス』が与えられている!

6年生にはオンライン授業で、先日の離任式ではみなさんにも「何のために学んでいますか?」ということについて少しお話をしました。

今すぐに答えは出ないと思いますし、「なんで勉強しなきゃいけないの?」と思っている人もいます。それでいいと思います。そういった「疑問」をもつことが大切ですし、考え続け、いろいろな人と話をしてみてください。

私が感じたことは、学べば学ぶほど、いろいろなことにチャレンジする「チャンス」が広がるということです。自分ができることの選択肢が広がります。逆にいうと、「学ばない」と「チャンス」が狭まってしまうということです。

例えば、私の場合…

- 2年前まで、全く文字も知らず読めず話せなかった「アラビア語」を学ぶことによって、現地の人と少し話すことができ、考え方や文化を知ったり子どもたちに体育を教えたりすることができるようになりました。
- 本や映画、オンラインイベントなどで中東の文化や歴史を知ること、ヨルダンに住む方々のことを少し理解することができるようになりました。

こうした2つの学びにより、誰かの役に立つことができるようになるのです。

しかし、まだまだ知らないことがたくさんあるので、今後もさまざまなことを学んでいこうと思います!

最後に…

みなさんには、これらの言葉を送ります!



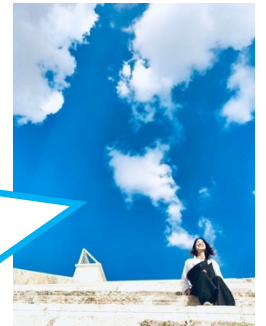
相田みつをさんの言葉:「一生勉強 一生青春」

日本にいるからこそ、できることはたくさんあります。
たくさん遊び、たくさん学べるこのチャンスを存分に生かしてください!
(学校だけでなく、本や人、遊び、旅行や旅からも!)
それが「自分のため」だけでなく、いつか「誰か」のためになるでしょう!

اضحك يضحك لك العالم.

イドハク ヤドハク ラカルアーラム
「笑え そうすれば世界は君に笑いかける」

私がヨルダンの生活や学校での活動で大切にしていた言葉です。大変なこともあります。言葉では伝えられないことがあったからこそ、まずは「笑顔」でいることを心掛けていました。自分から少しずつ笑顔が広げれば…と今も信じています。



そして、私の約1年7ヶ月間の協力隊としてのヨルダンの旅、お便りはここで終わります。

しかし、私にとっても、みなさんにとっても様々な「学び」「出会い」はこれからです。

皆さんの「旅」もこれが「はじまり」。「知りたい!」「調べてみたい!」「やってみよう!」といった気持ちを大切に、さまざまなことにチャレンジしてみてください! 少しずつ世界が広がっていくと思います。

★世界の様々な国にいる協力隊員がそれぞれの国のことを発信しています。(覗いてみてください!)

👉<https://world-diary.jica.go.jp>

世界はまだまだ広いです!知らない、見たことのない世界がたくさんあります!

私もまだまだ知らないことばかりですので、是非教えてくださいね!

では、長い間読んでくれてありがとうございました! これからもみなさんの活躍を応援しています!! また会う日まで! 元気でいてください!



(マア サラーメ: さようなら!) **مع السلامة!!**